

### 3 市民の皆様へ（私の思い）

高砂市が目指す「幸福度の向上」に向け政治家が市民の為に知恵やエネルギーを使うことは当然のことだとは思いますが、与えて頂くばかりの中の「幸福度の向上」には限界があり、市民もやはり僅かな事でも自らが公の為に何が出来るかを考え行動する中で得られる自己有用感を得ていくことが大切であると考えます。

と言いつつ、高砂市は多くの市民団体が活動を積極的に行い「世のため、人のため」に活動をしている地合いがあり、これらの風土が更に一人一人の心に浸透し、更に多くの人々の行動が変わって行くことを願っています。

非常に具体的な話ですが、社会貢献の一環としてより安全な高砂市を創って行くために市民一人一人の安全・危険への気付きが直ぐに行政に改善要望として発信できる「たかさごレポート」は非常に有益なツール（アプリ）です。是非ダウンロードして日々の生活の中で危険だと思う箇所の改善要望を発信頂き安全社会構築に関与して頂きたいと思っております。

大切な家族、大切な人、大切な自分が無事に家に帰ってくるより安全な高砂市になることを願っています。

私自身は本年9月をもって市議会議員を引退させていただきますが、人のつながりを促進する場として取り組んできたこと(1)“自主的”公園掃除と(2)日曜だけのラジオ体操は継続していきたいと考えています。

是非皆様もご近所の人と気楽に“日曜だけの”ラジオ体操を行い、人と人との緩やかな繋がりを構築して頂きたいと思っております。



### 16年間、本当にありがとうございました。

#### ★私が意気投合した全盲の小学生と継続して一緒に取り組んでいる“日曜”だけのラジオ体操のご案内👉

毎週“日曜”だけ高砂市総合運動公園総合体育館前にて

午前6時半からラジオ体操を実施中👉

皆様お気軽に、気が向いたらお越しください!!! (雨天中止)



高砂市議会議員 はる ひ さ

# たかお治久

後援会報

活動報告 No.36

■発行/2026年5月 ■編集発行/鷹尾治久後援会 ■後援会連絡所/カネカ労組高砂支部内

## 4期(16年間)ありがとうございました

高砂市議会議員のたかお治久です。この度4期16年間お世話になりました市議会議員を本年9月の任期満了を持って引退させて頂く事になりました。後援会員の皆様はじめ、これまで出会った多くの皆様には本当にお世話になり深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今回の後援会報が私にとって最後の会報となりますので、最初に私の現在の思いを記載し、3月定例議会での会派代表質問、そしてこれからの事等を記載させていただきます。



### 1 感謝の16年

私が議員として立候補を決意したのが平成21年夏、目指す姿を言葉にしたのが「**心晴れやかな暮らしを実感できる、笑顔あふれるまちづくり**」でした。その後、私が勤める会社の労働組合の強力な支援体制の下、従業員、協力会社様そして市民の皆様のご支持、ご支援により平成22年8月に無事に初当選させていただきました。

当時より高砂市をはじめとする基礎自治体は高度成長・人口増加時代から反転、少子高齢化時代をむかえ、社会福祉経費比率のアップ、公共施設の老朽化問題等「この状況をどうして行くんだ?」という状況にありました。それでも「できることはある!」との思いで、議員としてやれることをやろうと考え、軸としたのが下記2点です。

- (1)人生・生活の経済的基盤となる仕事環境(産業)の発展
- (2)幸福を実感できる人と人との繋がりの促進

仕事環境の発展という意味では、事業を営むそれぞれの企業や商店は自らの人生の基盤として懸命に努力をされており、議員として如何に行政とのパイプ役となり、また時に行政提案に対し産業発展には必ず実現すべき政策(案)には強く賛同の意思を示し動きました。ただ、その一方で議員は執行権がない立場であり、行政施策に対し会派要望や一般質問、個別面談等あらゆる場面で「ああすれば良い!」「こうすべきだ!」と提案や要望をすることができても中々実現に辿り着かない歯がゆさを感じ続けたのも事実です。

そんな中、政治の役割として「人に如何に幸福を感じて頂けるか?」のポイントは「誇りを持てるか否かにある」と強く思い、会派要望では毎年「何かで日本一を掲げそれを軸に職員・市民が一体となって取り組むことが大切」と発信してきました。そしてその具体的(案)が「横断歩道、車両停車率日本一」でしたが、この採用には至りませんでした。

また、執行権がない議員でも自らが動き出来る事として上記(2)の「人と人とのつながりの場づくり」として取り組み始めたのが「“自主的”公園掃除」なる取組みで、これは平成29年6月より開始し市内の特定の公園(2箇所)を毎月1回(30分)集える人達が(無理やりではなく)“自主的”に集い、掃除を行う形で現在も継続しています。これについては最初から現在まで継続して参加して下さっている方もおり、本当に感謝です。

さて、私はこの9月で任期満了を迎えますが、高砂市政はこれからも続きます。先に述べた通り少子高齢化、公共施設の老朽化、技術の進歩と人間の価値観の変化等、何が正解かは人それぞれに違う中、高砂市が目指すのは「幸福度の向上」です。

必ず高砂市民の皆様が幸福度が向上することを信じ、感謝の気持ちを込めて、最後の後援会報をお届けさせていただきます。

たかお治久の考えや活動は、日々更新しています。

「たかお治久の活動報告」ブログ(右QRコード)でも掲載しています。是非ご覧ください。

今後とも、ご支援よろしくお祈りします。 <https://ameblo.jp/kosei0421/>



たかお治久HP



たかお治久ブログ

ぜひ、アクセス  
して下さい!



日常お困りの市政相談は、お気軽にお電話ください。 連絡所 TEL.079-445-2395 (カネカ労働組合高砂支部内)

## 2 会派代表質問(Q&A)

議会では年度末議会(3月定例議会)にて、次年度に行政が取り組もうとする全体像を当初予算(案)として提案を受け、約1ヶ月をかけて審議するのですが、その最初に各会派代表がこの提案についての総括質問(これを会派代表質問という)として行います。ここでは今般私が行った会派代表質問Q & A(概要)を報告させていただきます。



### Q1 高砂市が目指す姿の達成に向けたシナリオと仕掛けについて

Q 市民満足度向上に向けた短期的観点、長期的観点でのシナリオと仕掛けをどう考えているか？

(質問理由解説) 前期基本計画(5年間)では重点評価指標が達成できなかった。後期基本計画(5年間)ではどのような仕掛けが施されているのか考えを聞きたい。

A 短期的な観点では市政情報の積極的な発信や官民連携による地域デジタルポイントの導入など、市民が変化を実感できる取組を進めていきたい。また、毎年度の行政評価を通じて各部署が実施する事業を不断に見直し、少しでもよい事業としてより市民に喜ばれる事業を進めていきたい。長期的な観点では市民病院の経営改革に着手し赤字額の発生を最小限にとどめ、市の財政負担の軽減を図ると同時に公共施設の再整備を進め、また将来世代に過度な負担を残さない、持続可能な行政運営を実現していき、市民満足度の向上につなげていきたい。

Q グランドデザインの必要性についてどう考えているか？

(質問理由解説) 高砂市も今ではあらゆる施設が老朽化しており、もはや個別対応ばかりに注力している場合ではない。この状況において人口流出を抑えるための魅力的まちの創出には市内全体をどうデザインしていくのか。グランドデザインの観点で進めていくべきではないかと考える。

A 目の前に迫っている公共施設の大量更新という課題については単にそのまま建て替えるのではなく、これからの高砂市にとっての必要性を考慮し複数施設の機能を集約、統合する複合化など、市の全体像を俯瞰し、見直し、取り組んでいきたい。その為にまずは、本市の公共施設の現状を市民の皆様にご説明し、ご意見をいただき、総合管理計画、個別施設計画を含めた全体最適化計画を見直し、その結果として人口減少社会においても持続可能な行政経営を実現し、総合的に魅力的なまちを目指していく。

Q 「次世代を担う層に選ばれるまち」への考え方について

(質問理由解説) 若者たちが「他市町ではなく高砂がいい!」と思い、高砂に残ってくればやはりこの高砂はもっともって活気に溢れ、まち全体としての誇りが生まれ、幸福度の向上につながるのではないかと考える。

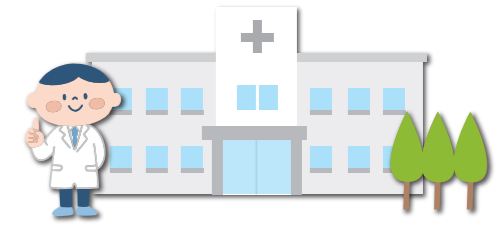
A 各年代の特性や課題を的確に捉えた施策を講じ、ターゲットを明確にした広報活動が重要。とりわけ結婚・就職・定住といった人生の大きな転機において、高砂市の魅力に気づき、共感していただくことが大切だと考えています。兵庫県が運営するひょうご出会いサポートセンターの登録料補助を実施し、結婚を希望する若者を後押ししておりあわせて婚姻に伴う新生活を支援する結婚新生活支援事業により、住宅取得費や家賃、引っ越し費用の一部補助を継続していく。また、東京圏からの移住支援金、若者世代の本市へのUターンを促す制度についても、引き続き取り組んでいく。しかしながら、制度による後押しだけでは十分とは言えず、臨海部企業に就職する若者が住むまちとして本市を選び続けるためには、本市で暮らす価値や魅力を感じていただくことが何より重要であると認識しており、このたび若い世代を意識した移住定住促進ガイドを大幅にリニューアルした。令和8年度にはその内容を基に本市を選んでいた方々の声や、具体的施策の紹介をさらに充実させ若者世代にとって働くまちが暮らし続けたいまちとなるよう、広報活動にも一層力を入れていく。

### Q2 継続課題以下5項目をどう考えているか？

Q 市民病院の必要性は？

A 存続は不可欠!!

本市における二次救急医療や感染症対応など、市民のいのちと健康を守る基盤として重要な役割を担っており、地域医療体制の維持という観点から、市民病院の存続は不可欠。



Q 今後の学校の再編計画は？

A 令和9年9月末に計画を策定!!

令和8年度より施設検討⇒令和9年3月審議会(答申まとめ)⇒高砂市新たな学校づくり推進計画の素案作成⇒パブリックコメント、説明会実施⇒令和9年9月末に計画策定



Q 中学校部活動の今後は？

A 令和10年4月に地域クラブへ完全移行!!

・スポーツに関しては既存の学校部活動の種目をおおよそ確保できる見込み。  
・費用負担は経済的支援に係る予算措置の検討は必要であると認識。  
・情報周知は小学4年生から6年生の保護者を対象にして、昨年12月に保護者説明会、2月に中学校の入学説明会にて説明を実施。またホームページやスクリーン等を活用して「部活動地域展開だより」等を発行。

Q 産業振興に対する行政の役割は

A 環境整備と成長促進のつなぎ役!!

本市の強みや地域特性を踏まえた産業の方向性を示し、民間の創意工夫や投資意欲を最大限に引き出す環境整備と成長促進のつなぎ役として機能することにある。そのため関係機関との連携を強化し、現場の声を丁寧に把握しつつ、行政が積極的に働きかけて政策を展開していく。

Q サンモール跡地をどうにかできないか

A 難しいが所有者へ強く申し入れていく!!

当該地は民間所有地であり、開発の主体はあくまでも所有者にある。行政が直接的に事業を実施できる土地ではないという点が本件の難しさで、所有者に対し、整備計画の早期公表と早期着工の実現さらには、関係者にも明確に説明を行うことを強く申し入れていく。



\*上記は一般質問(質疑)の抜粋です。他にも「文化活動と文化会館の今後は?」「高砂、荒井の駅前開発の目的は?」「職員の目標設定の在り方は?」など詳細はインターネットにて録画放映されていますので視聴頂きたくよろしくお願いいたします。 高砂市議会インターネット中継▶



### Q3 令和8年度の政策について

Q 市の目標である「幸福度の向上」の実現に向けた令和8年度の“攻めの政策”は？

(言葉の説明と質問の意図) “攻めの政策”とは老朽化対策や他の自治体を実施している政策に追いつく内容のものではなく、市民に対し新たな価値と満足、誇りを与える政策。令和8年度ではどのような政策が該当するのか、シナリオ含めてご説明を求めた。そこは予算権限、人事権等、全権を握るトップである市長が明確にその達成を意識し、リーダーシップを発揮して、組織運営を行なっていくかどうにかかっていると思っている。それだけにこの代表質問では市長の口から自らの政策への思いや考えを含め確認する意図がありました。

A 行政として“攻めの政策”というような定義が制度的にない為、大型事業、市民病院、また駅前の周辺整備というような答えとなる。